

■貝島大助 炭坑夫から炭鉱主を経て、貝島鉱業を創業し、巨利を上げるに至った。

かいじまたすけ

阿部正弘首座1845= 筑前国鞍手郡直方で、貝島米四郎・タネの長男に生まれる。

その日の食事にも事欠く暮らしで、

万次郎帰国・1852= 7歳：父に伴われて坑内で働き始める。

ペリー来航・1853= 8歳：

開国開港・・・1854= 9歳：

かたわら家計を助けるため、野菜の行商、寺奉公、下関へ出稼ぎを行うなど、苦しく悲惨な生活を続け、

桜田門外変・1860=15歳：

生麦事件・・・1862=17歳：父が死去。一家の生活の糧を炭鉱業に求め、弟たちと共に筑前・豊前の小炭鉱の鉱夫として働き、
8月18日政変 1863=18歳：

その手腕によって棟梁として頭角を現わして行く。

明治維新・・・1868=23歳：

学問のすすめ1872=27歳：

明治6年政変 1873=28歳：

初の民間工場1875=30歳：この頃、炭鉱主として独立するが、

常に資金難に悩まされ、炭鉱経営は一進一退を繰り返し、

明治14年政変1881=36歳：四男太市が誕生。

内閣発足・・・1885=40歳：4度目の独立として、*大之浦炭礦を取得し開業をしたのが一大転機となり、

帝国憲法公布1889=44歳：政府の撰定鉱区制の指定を受けるべく、炭鉱社を設立するが、

帝国議会始・1890=45歳：恐慌による炭価の暴落で経営難に陥り、高利資金を借入れ、

足尾鉱毒始・1891=46歳：*三井財閥が買収した金田炭礦の視察に来ていた井上馨と偶然出会う機会があり、彼から評価され、毛利公爵家からの資金供与を仲介してくれたことで、経営苦境を脱出することができたが、引き換えに三井物産に一手販売権を委託させられる。

日清戦争始・1894=49歳：日清戦争の勃発による炭価高騰によって、

白馬会・・・1896=51歳：井上馨の還暦の祝宴席上、井上が自分の姪の娘鮎川フミ(鮎川義介の実妹)と太市との縁組みを約束。毛利家からの債務を全て返済するが、一手販売権は三井物産によって掌握され続けるなか、

八幡製鉄始・1897=52歳：筑豊炭田の有力鉱区・大辻炭礦を買い入れ、

子規句歌革新1898=53歳：太市含む同族4名で、貝島鉱業合名会社を設立、

Bushidou・・・1899=54歳：

資金的独立と物産から営業権を奪回し、直接販売を実施することが悲願で、

教科書疑獄・1902=57歳：この年、太市が東京商業高等学校に入学。

日比谷公園・1903=58歳：炭鉱業界が不振を極める時点で三井物産・銀行からの借入金は144万円に達していたが、

日露戦争始・1904=59歳：この年、太市が鮎川フシと結婚。

日露戦争終・1905=60歳：日露戦争とその直後の炭価高騰によって、

韓国反日暴動1907=62歳：この年、太市が米国へ留学、

アヲキ創刊・1908=63歳：巨額の利益を上げ、借入金を完済したのみならず、逆に三井銀行の大口預金者となる。全国主要炭鉱会社出炭高においても、三井合名、北海道炭礦汽船、三菱合資に次ぐ第4位となり、

伊藤博文暗殺1909=64歳：この年、太市が帰国。*井上馨の指示に従って、貝島鉱業合名を株式会社に改組し、貝島家家憲を制定。

明治天皇没・1912=67歳：

21ヶ条要求・1915=70歳：貝島家顧問つとめてきた恩人井上馨の死去を追うように、

民本主義・・・1916=71歳：*太市に後を託して、没した。